

**平成 30 年度第 3 回 仙台市若林区区民協働まちづくり事業評価委員会  
議事録**

**1 日時**

平成 31 年 3 月 13 日（水） 14 時 00 分～17 時 00 分

**2 会場**

若林区中央市民センター別棟 第 3 会議室

**3 出席（名簿は次第裏面のとおり）**

(1) 評価委員

(2) 事業担当課

家庭健康課、区民生活課、戸籍住民課、若林区中央市民センター、  
まちづくり推進課

(3) 事務局

まちづくり推進課

**4 傍聴者 1 名**

**5 議題**

平成 30 年度企画事業の事後評価について

※ 評価は事業ごとの質疑応答及び意見交換をもって行う

**6 配付資料**

(1) 平成 30 年度企画事業実績概要報告書 ※評価委員へは事前に配布済み

(2) パワーポイント資料

(3) その他関連資料、成果物

**7 経過概要**

(1) 開会

(2) 委員紹介

(3) 平成 30 年度企画事業実績概要報告

☞ 各課で事業ごとの写真等を投影しながら、実績概要報告書に基づきポイント  
を報告。その後、質疑応答・意見交換 別紙参照

(4) 閉会

## 平成 30 年度企画事業に関する質疑応答及び意見交換 記録

委＝評価委員

担＝事業担当課

## 1 若林区子育て支援推進ネットワーク事業

担当：家庭健康課

委 昨今、共稼ぎ世帯が増えており、平日開催であると参加がしにくい状況となっているが、休日に開催するなどの工夫はしているか。

担 本日報告したサロンは平日開催となっている。定例サロンは、予め決められた曜日に月に1回の開催。現在、土日の開催は検討してきていないが、今後は「応援団」のなかで、曜日についても議論していきたい。

委 「子育て情報ブックわっぴー」について。先ほど紙媒体だけではなく、ウェブ上でも配信していればとの報告があったが、事業費を見るとわっぴーの作成料が事業費を占める割合が高くなっている。この紙媒体を簡素化し、その分ウェブに移行して浮いた事業費を、他の子育て事業を充実させていくのに利用するのか、それとも、別に新たな事業展開を考えているのかを伺いたい。

担 わっぴーの費用で浮いた事業費をどうするかについては、具体的な検討はしていない。今後、必要とされるものに利用できるよう検討していきたいと考えている。

委 今年度からのびすく若林と連携を図り、一緒にお誕生会をしたり、情報交換をしたりしたとの記載があったが、のびすくと連携を図ることで、新たな視点で活動に反映できたことがあったか。

担 のびすく若林は平成 29 年 10 月から開設した。区役所と立地の近さもあり、区役所には敷居が高くて行くことができないと思っている方が、のびすく若林には気軽に立ち寄り遊びながら、子育ての悩み等を打ち明けられているとの話を聞いている。そのなかで保健師が関わった方がよい親子がいた場合は繋いで頂くようお願いしている。地道な活動にはなるが、連携をとりながら必要な支援に繋げていくことができるようになった。講座等に参加する元気な親子だけではなく、親子連れがあまり利用していない時間帯を選んで来るような親子もいるとの話を聞き、そういった支援が必要な親子に連携が図れていると感じている。

助言 たくさんの情報が得られるようになったと思われるので、ぜひそれを今後の事業に活かして頂ければと思う。

委 確か4月ごろに、仙台市の記者発表で、スマホの子育てアプリの関係の無線LANを提供するという話が出ていたと思うが、そういうものを事業と連携し活用している

例などはあるか。(補足) 仙台市公認の子育て情報アプリ「まちなび」のこと。

**担** 子どもが生まれたり、転入してきた親子が登録することで、月齢にあわせて健診の案内がきたり、誕生日おめでとうのメッセージが配信されたりするメール配信サービスを仙台市でも始めている。現在は具体的な連携を図れていないが、今後は検討していければと思う。

## 2 若林区健康づくり区民会議

担当：家庭健康課

**委** 健康づくりの対象者に、企業ははいっているか。広く一般市民という見方か。

**担** 働き世代も対象になっている。なので、企業から健康講座の依頼あった場合は、依頼されたテーマに合わせて、心の健康であったり、生活習慣病予防であったりと健康教育を行う機会がこれまでもあった。しかし事業所や企業と接点を持ちにくく、すべてのライフステージのなかでは、働き世代への介入が課題だと感じている。

**委** ここ数年になるが、健康経営に積極的に取り組む企業が増えてきており、厚労省と経産省が組織している日本健康会議のなかでは、優秀な取り組みを表彰する制度もできている。HPに掲載されてもいるので、そのなかで若林区の企業を見て頂き、ネットワークを構築してもらい、また接点がないとの話もあったので、そういう企業から接点を持ち拓げていくことを検討してほしい。企業からみると社員の健康を守ることの責任は大きくなってきているので、上手につないでほしいと感じている。

**委** 先ほどの報告のなかで、3つの主要事業に取り組んでいるというのは理解できた。そのなかで「学校からの啓発」という部分に関して詳しく聞きたい。

**担** 区民協働とまでは言えない部分だが、年に1回「学校保健懇談会」という会議を開催し、区内小学校、中学校、高等学校を対象にして養護教諭にきてもらい、若林区の取り組みや課題を共有する機会がある。そのなかで、資料として更新したデータを配布しており、それを各学校の「保健便り」等で活用し、例えば6月の健康診断の時期に若林区の状況を保護者向けに啓発をして頂いている。

**委** 実績概要報告書のなかで、若林区の健康課題の分析を行ったとの記載があるが、分析した結果とそれを次年度にどう活かして事業を展開するのかを伺いたい。

**担** 今年度半年位かけて、区の健康実態を「医療費」「要介護認定の原因疾患」「幼児健診の肥満度」「学校の身体測定」などを基に、仙台市のなかで若林区はどういう状況にあるのかを調査した結果、幼少時期より肥満割合の数値が高いことがわかった。小・中学校でも学校名は出せないが、肥満度が市の中で一番高い学校があり、さら

に40代以降に実施する特定健診の結果ではメタボリックシンドロームや糖尿病の検査でひっかかる割合が高いこともわかった。親の生活習慣がそのまま子どもに移行してしまっていると推測できる。ライフステージごと、すべての世代に介入することは難しいが、子どもたちが将来、生活習慣病により健康寿命を短くすることのないように、発症予防の観点から、まず幼児期や学齢期に力をいれて、何かできないかと検討している。

### 3 若林区安心安全街づくり活動推進モデル地区事業

担当：区民生活課

**委** 次期のモデル地区事業は、薬師高砂堀通り沿いで行うとの報告であったが、地域の要望によりモデル地区を選定しているのか。

**担** 直接、地域からモデル地区選定への要望はなかったが、昨年夏に、薬師高砂堀通りで立て続けに3件の不審者事案が発生し、町内会やウルスラ学院から防犯カメラを設置できないかとの相談を受けた。防犯カメラ設置は補助事業となっており、地域が設置申請すると、補助がでるといものである。しかしながら、設置後のルールづくりやランニングコストの維持についてなどの制約があり、町内会や学校にとって設置は、ハードルが高いようだ。ハード面の対応はできないが、ソフト面で何らか支援ができないかと課内でも意見を出し合い、安全安心まちづくり事業のモデル地区として一緒にやっていたらと選定をした。事業を一緒にやることについて、関係各団体からはほぼ了解を得ている状況だ。

**助言** 昨年度からの2か年は卸町でモデル地区事業を行い、地域参加者が少なかったとの報告もあった。やはり地域側からやりたいという要望がないと、区民協働で行うのは難しいのではないかという指摘が昨年もあったように思う。今回も地域側の要望がしっかりあがっている事業であれば良いかと心配している。学校からの防犯に関する要望もあったということなので、学校を積極的に巻き込んで事業を進めるなども検討してみてほしい。

**委** 実績概要報告書で卸町市営住宅入居者の参加が振るわなかったとの記載があるが、実際の参加数はどの位だったのか。

**担** 安全安心推進パレードへの参加は15団体35名の参加があったが、そのうち15名の参加があった。卸町市営住宅には全部で98世帯200名位の入居者がいるので、比較すると少ないと感じている。パレードについては、卸商センターに所属している企業の参加が多かった。また特殊詐欺防止講座には14団体38名の参加があり、ほぼ同じ位の参加者はいたが、こちらの方が卸町市営住宅入居者の方が多かった印象がある。また啓発品の効果もあったのではと思っている。

- 委 企画の終了にアンケートのようなものをとっているか。
- 担 特殊詐欺防止講座のアンケートはとっていない。ただ、参加者同士で「気をつけよう」等の会話のやりとりをしているのを見かけている。
- 助言 主催側の意図と地域側のニーズが少し離れているような感じもするので、アンケートをとるなど、地域のニーズを事業に反映できる機会を設けてほしいと思った。
- 担 今後も何らかの講座内容に参加はしていくので、事後の評価もしっかりしていきたい。
- 委 「安心安全なまちづくり」は、まちづくりのなかでも地域の方の関心が高い事業だと思っている。そのなかでより多くの住民の方に知って頂くために講座をしていると思うが、例えば特殊詐欺防止講座では14団体38名の参加があるが、参加した14団体の方が、それぞれ地域に持ち帰って伝達しているかどうか等のアンケートや報告を受けているか。
- 担 実態としては、各関係団体の長がどの企画にも参加している状況。各団体がそれを持ち帰っての研修を団体内で行っているかをきちんと精査していない。次年度以降は、検討をしていきたい。
- 助言 資料もきちんとしているが、白黒でも良いので年間で回数を重ねる、または一連のものをパッケージ化して、公民館等に届けるなど、「来る者はいらっしゃい」というメッセージは伝わるが、出前講座などで積極的にまわります等の活動が、今後において期待することである。

#### 4 イラスト入り婚姻届書作成事業

担当：戸籍住民課

- 委 すごくダイナミックなイラストだと思った。これはプロのデザイナーによるものか。
- 担 はい。
- 委 他都市でもこのような事業の事例があるか。また、今回は婚姻届だったが、今後において、例えば出生届などに拡がっていく可能性はあるか。
- 担 婚姻届については、他の市町村でもオリジナル婚姻届を作成している。婚姻届は、全国すべて同じ様式になっているので、例えば他の企業が作成しているものでも提出ができる。今回作成したものは婚姻届だが、WAK30プロジェクトのなかで今後、出生届や他の物も作成するか検討しているところだ。

- 委 全国的にはむしろ歯どめが効かない程にぎやかなデザインになったので、指導が入ったとも聞いていたが、作成の段階でやりたかったことを変更したり、加えたりしたことがあれば知りたい。
- 担 当初6案作成したが、アンケートを行った結果、僅差になったイラストが4案あった。そのなかで、僅差のイラストの良いところを、完成のイラストに共有できないかと話しあった経過がある。また変更したところとしては、婚姻届の横の部分に白い空白の部分があるが、これは休日の届け出で区役所の守衛室が預かることになる際に、日時がわかる判子を押印するが、その後の処理で日時が判別し易いように空白にしている。
- 委 普通の婚姻届とこのイラスト入り婚姻届は併用しているのか、それともイラスト入りに全部代わっているのか。
- 担 今回作成した2種類のイラスト入り婚姻届と今までの普通の婚姻を置いており、選べるようになっている。
- 委 どの位の方が、今回作成したイラスト入り婚姻届を選んでいるか。
- 担 窓口で対応している状況では、「イラスト入り婚姻届もあります」とお伝えすると、今回作成したイラスト入り婚姻届をほぼ全員の方が手にとっている。

## 5 若林区の映像保存・活用事業

担当：若林区中央市民センター

- 委 実績概要報告書のなかで、過去に撮影した写真を区役所のホームページに掲載していきたいとの記載があるが、その際には無料でダウンロードできるようになると、多くの市民も活用ができるようになると思うがいかがか。
- 担 総務課と共同で行っている企画であるが、掲載の際には活用できるようにしていきたいと考えている。
- 委 写真撮影のボランティアがいるとの報告だが、現在何名の方が登録しているか。またどんな形で募集しているのか。
- 担 現在、登録している方は5名。新規募集は行われていない状況。新たに入ったメンバーは登録している方の知り合いになっている。登録メンバーが高齢化してきているので、今後はまたボランティアの募集が必要になってくると考えている。特にメンバーで急に亡くなられた方もおるので、若い方をメンバーに取り入れたいと思う。

委 今の画像ダウンロードについて、著作権の処理をボランティアの方ともしっかり行い、あとでトラブルにならないようにしてほしい。

担 はい。ボランティアの方とは、毎年最初の打ち合わせのなかで、権利は区役所側にある旨の話をしており、承諾は得ている。

委 ボランティアは現在5名で、新規募集をしていないとなると、限られた市民の生きがいつくりに事業費を使用しているという意地悪な見方もできるが、新規募集を行っていない理由があれば伺いたい。また、ねらいのところに、被災した地域の復興への歩みを記録していくと記載しているが、七郷市民センターでも定点観測チームがあるが、何か連携をしているのか。

担 現在登録の5名がお住まいの地域もちょうど上手く分散しており、バランスがとれていたため、そこまで深く意識をせずに事業を行っていた。先ほどのご指摘のとおり、今後は課題として、どのように地域のバランスを見ながら、メンバーを増やせるかを検討していきたい。また七郷の定点観察チームとの連携については、特に具体的な連携はしていない状況。定点観測チーム自体の活動は知っており、実際に写真展示を見ている。貴重な写真展示を行っているので、どのような連携ができるかも含めて検討していきたい。

委 収集した情報の活用の部分で、その活用のところにボランティアの参加を考えたいとの話が以前でいたように記憶しているが、実際に市民の方がいて、こんな活用ができたといった話はあるか。

担 ボランティアとは年に4回程度の定期的な集まりがある。時期で撮影して欲しい内容をお願いしており、先ほどもご説明したとおり、ボランティアの方はお住まいの地域が全員違うので、それぞれの地域で変化しているところ等を撮影して頂き、そのなかの写真を情報発信に利用している。例えば、このせんだい農業園芸センターの写真は、独自に撮影して頂いたもので、それを若林の点描としての素材として利用し掲載している。また、ボランティアとの打ち合わせのなかで、今後HP等に掲載する為に収集した情報の分類や整理を進めているところだが、今まで中心となってきたメンバーが亡くなったこともあり、少し停滞しているので、次年度はより良い情報発信の仕方をボランティアの方とともに進めていければと思っている。

## 6 若林区地域学校連携推進会議

担当：若林区中央市民センター

委 地域のなかで子ども達を守っていく、また学校側から見ると、学校内部だけでは知ることのできない視点を取り入れることができる意義のある会議だと思う。昨年度は、この会議に児童館からの参加もあったかと記憶しているが、今年度はどうか。

- 担 昨年度は、全地域の児童館職員が参加したが、大人数になってしまった。児童館は市民センターと併設のところが多いので、今回は2、3か所だけの参加で留めた。昨年は100名を超える参加があったので、今回はそのようにさせて頂いた。
- 委 会議の終了後にアンケートをとり、そのアンケートをまとめた資料を事前配布し、次の会議に望むスタイルをとっており、非常に話が焦点化される良い取り組みだと思っている。今後もこのような形の進め方をしていくのか。
- 担 座学のような形になっていたもので、昨年度から今のような取り組みに変更した。地域が知りたいことである、他の地域がどんな成果、取り組みがあったかがわかるように、年度の終わりに再度アンケートをとり、例えば出前講座にきてもらった、講師にきてもらった等の細かいことも含めて記入してもらった。学校からは、区役所側がどんなことができるのか解らないとの話もあったので、区役所の各課がどんなことができるかを聞きとり、それを一覧にしたものも配布した。今回の会議はそういう資料を基に話し合いができたと思っている。
- 委 そのなかで、一番多かった事例は何か。
- 担 防犯や安全、通学路点検に関する話が多く、特に防犯の関係でできることについての話があった。また出前講座の話では家庭健康課の虫歯予防、肥満とかの講座ができるとの話を聞いた。
- 委 取り組み状況の実践例を蓄積し、提供していくことが重要との記載があるが、具体的にはどのように蓄積していくのか。
- 担 なかなか難しい話だと思っている。本当は、この会議を年に何回か開催できれば良いとは思いますが、集まるのが難しいので、まずは顔が見える関係をつくり、聞きやすい環境をつくることだと思っている。蓄積の部分で、他の学校の事例を紹介する、市民センターが間に入りつなぐことからできればと考えている。
- 助言 蓄積されたものをまた共有できるようになると、もっと発展が見られると思う。
- 委 この会議は年に1回で大人数の参加であるとのことだが、例えば事業概要に記載しているエリア別情報交換会のように、比較的身近な地域において年に何回かの実施があり、そのなかで出た意見等をあげながら、年に1回この会議のような全体会を開催できれば、事業の意義がもっとでると思う。もっと小さいエリアで地域ごとの会議を併せてやっという動きはあるか。

**担** 理想ではそうなればと思うが、現実的には難しい。特に学校からは、年に数回も集まることはできないだろうとの話を頂いている。区内に6つ市民センターがあるので、その地区の市民センターが主催となつての開催も検討できるが、各市民センターとも多くのイベント企画があり、新たに事業を増やして開催することは難しいと思う。しかし、各地区の市民センターでは地域懇談会を2回開催しており、学校や学校支援地域本部、町内会の方も集まる機会がある。そのなかでは課題とまではいかないが、困っていることなどの意見がでることもある。そういう意味では市民センターも役にたっているのではとも思っている。学校の参加が難しい以上、市民センターとしてこの事業の回数を増やすことは難しいと考えている。

**助言** 確かに難しいと思うが、例えば同じような課題を抱えている場合、1人ではなかなか解決に結びつきにくいのが、数人いるといろいろな解決方法もでてきやすいと思う。また共通の課題があると、人は集まりやすいと思うので工夫ができたらと感じた。

## 7 ボッチャをととした区民地域交流促進事業

担当：若林区中央市民センター

**委** ボッチャの指導者はどのような方か。また、事業をすることでチームが結成されて、試合ができるようになれば、もっとボッチャが周知されると感じた。確か仙台大学でボッチャの支援サポートをするサークルがあるので、学生の方を取り入れてはどうか。老人クラブなどで「ボッチャ交流会」ができていたとのことだが、もっと幅広い年代の方にボッチャを知ってもらえると活性化につながると思うがいかがか。

**担** 講師は仙台市障害者スポーツ協会の理事に指導をお願いしている。ご指摘のとおり、このスポーツは子どもから高齢者まで楽しめるものなので、幅広い年代に知って頂きたいという思いはある。若い人に着目していなかった部分があるので、今後検討をしていきたい。

**委** 「ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ養成講座」を全7回で開催したとの記載があるが、全7回の講座を受講した人数を伺いたい。

**担** 受講生は男性4名、女性2名の6名であった。

**委** この養成講座の課題として、運営スタッフとして活動するまでには至らなかったと記載があったが、これは地域でボッチャをするときに審判などの運営スタッフとして活動するといった意味か、それとも地域でサークル活動を立ち上げるという意味が含まれているのか。

**担** 地域からの要望で、審判などの運営スタッフを担って頂くことを想定したもの。

委 地域での展開に向けた運営スタッフとして活動するまでに至らなかったとは、老人クラブなど地域からの要請の声があったが、活動はできなかったということか。

担 複数回、実技にも参加してもらい、審判の経験もして頂いたが、まだ独り立ちして、ゲームを運営していくとまでは到達していない状況だ。なので、地域からの要請があっても、自分達だけでは出向くことはできなかった。

委 老人クラブ等でボッチャの手伝いはできたということか。

担 コートの設営や審判の方も携わってもらっていた。

委 毎年そういう積み重ねを継続していくことで、地域で要望があった際に運営スタッフとして独り立ちして出向くこともできるようになるか。

担 もう少し経験を積むことで、将来的には自分達で運営ができるようになればと思っている。

委 若林区中央市民センターが、ボッチャの普及に向けてずっと取り組まれていることを知っているが、実態として地域の方から、ボッチャをとおして交流を持ちたいという声はどの位あるのかを伺いたい。

担 出前講座等で昨年度出向いてのボッチャ普及活動を何回か実施したが、今年もやりたいとの要望があった。また各市民センターで行っている事業の老壮大学講座の中でも、ボッチャをやりたいとの依頼があった。さらに毎月1回の出前講座の方も依頼が増えてきていると感じているところだ。

## 8 第30回 若林区民ふるさとまつり

実施：若林区まちづくり協議会（若林区民ふるさとまつり実行委員会）

担当：まちづくり推進課

委 実施内容についてだが、これまでは被災地域の復興支援の位置づけが強かったと記憶しているが、今回は、そのような位置づけでは無くなったということによろしいか。

担 復興支援の位置づけは継続している。また若林区として復興への取り組みは切り離すことはできないと思っている。具体的には、宮城野区と連携した取り組みで復興を祈願する「風船飛ばし」や仮設住宅の時に結成された団体、サークルの作品販売や展示を「復興がんばっぺ市」として継続して支援している。

委 今回、企業からの協賛金が増えたとの記載があるが、特定の使い道があるのか。

担 企業からの協賛金は、特定の用途での使用ではなく、市からの負担金と同様に、まつり全体の費用の一部として使用している。

委 今後、協賛金が増えてくれば、市からの負担金は減る方向性なのか。

担 昨年度のまつりが終了した段階で、繰越金が約 30 万円までに減った。今年度は開催が可能でも、今後も継続してまつりを開催するには、ある程度の繰越金は必要だと思っており、それを維持するために、協賛金が増えても市からの負担金を減らすという考えはない。逆に繰越額が減った分、今年度負担金を増やした経緯がある。課としては、この増やした負担金を維持できればとも思っている。

委 私も参加させてもらい、すごく親しみやすいまつりだと感じた。できれば、屋台とフリーマーケットの数をもう少し増やせればとも思った。出店数を増やす取り組みはしているか伺いたい。

担 ご指摘の部分は課題だと感じている。今年のご存じのとおり、区役所北側の駐車場整備など区役所内敷地の工事があり、会場としては制限があった。次年度は、その工事等も終了するので、レイアウトを含めた検討が必要になってくる。それに伴い出店数の増加等も一緒に検討していければと考えている。

## 9 地域資源活用事業（六・七郷堀サポーターズ）

担当：まちづくり推進課

委 実績概要報告書の 6 番の事業費について、解りにくいので詳細を伺いたい。

担 報償費は講師謝礼金、需要費は事業を行うにあたって必要な消耗品や食糧費、役務費はこの事業で使用するかなり大きめの職のクリーニング代やスタッフジャンパーのクリーニング代となっている。また支出はしていないが、使用料は講座を開催する際に使用する会場使用料を積算していた。役務費は、誰かに頼んでやってもらう費用を指す言葉となるが、仙台市の予算費目のため、解りにくい記載となってしまった。

助言 継続して堀DAYさんぽ等で一般市民の方が堀に行く機会を創出しているが、その一方で課題の方では、参加者を担い手側に引き込むことの難しさを感じているとの記載もある。担い手づくりという点では、この企画が単なるにぎやかして終わっているという側面があると思われる。事業が、もう少しイベントから派生して、まちづくりの方にも活動が広がっていくと良いのではと感じている。

委 堀に愛着や関心を持つ住民がほとんどいないのが実情と記載があるが、これだけの活動を行っているにも関わらず悲しいことだと思う。何かメンバーのなかで、これを打開するような提案がでていないかを伺いたい。

担 この事業をまちづくりにどのように活かしていくかは、悩んでいるところだ。堀に愛着や関心を持つための打開策に関しても課題だと感じている。市民スタッフは、それぞれの気持ちや考えがあって、この活動に参加している。市の事業に協力しているということになるが、堀に対する考え方はいろいろお持ちのようである。市民スタッフそれぞれの思いをまとめ、意見を吸い上げることができるかとなるが、難しいと感じている。

委 まちづくりに繋げていく手段としてはいろいろあると思うが、一昨年に作製した「堀 DAYさんぽ」を増刷するという計画はなかったのか。

担 今年はまだ在庫があったので増刷はしていないが、イベント等では活用をしている。

委 このマップは内容も素晴らしいものだと思っている。もっとマップを活用した方が、まちづくりへの活動に広げられると感じているが、例えば学校での配布は検討しているか。学校でも総合的な学習の時間があり、身近な地域を知る活動があるので、そういう意味では、学校を含めたまちづくりや地域づくりの活きた資料になるのではと思う。今後の活動において、もっとそういう広がりがあると、まちづくりに繋がる事業となっていくのではと思うがいかがか。

担 学校には現在配布はしていない。普段の堀歩きは高齢者の参加が多いが、区民まつりの際の堀歩きでは、逆に参加者は小さい子どもが多かった。ご指摘のとおり、小さい子どもや学齢期の子どもでも堀に関心を持てる方はたくさんいるのだと感じている。これからは学校と一緒にやっていくことも検討をしていきたい。

委 現在登録メンバー12名中、実際に活動しているメンバーは7名とのことだが、新たに他からメンバーを募集する、またはこれから中核になる人を育てていき、中心となる人のもとで活動の幅をひろげ、自立化を図るなどを含めての意識を持った7名なのか。活動に対する思いを伺いたい。

担 活動しているメンバーは今年1名増えた。イベント参加がきっかけでの加入である。メンバーの活動意識については、新しく立ち上げた六・七郷堀研究会にも所属するメンバーと市の事業のみに参加している方と考え方はひとつではない。この事業を継続していく為に新たな人材を育てていくという意識を持っている方もいれば、現状維持で良いと思っている方もいるので、事業担当課として、どのように意見を集約していくかが課題となっている。

担 以前までは、サポーターズの代表として核になる方がおり、牽引していたが、お仕事が忙しくなった為に退会してしまった。その後、サポーターズで代表になる方が、今のところおらず、市の事業に協力しているだけの状況になっている。

委 区民協働事業として、このサポーターズの活動をしていて、区民協働だからこそ、区の直営ではできなかったことがやれていると思われるところ、また逆に区と組んでいるからこそ、ここはできないと思っているところがあれば知りたい。

担 堀歩きに関しては、現在堀のなかを一般市民が自由に入ることはできないが、そのなかで堀歩きができるのは、区の事業であることで、関係課と調整や連携ができるからだと思っている。事業実施の時は、関係課の職員も必ず参加している。逆に区の事業だからこそできていない部分は、かんがい期の堀利用など仙台市の方針にそぐわないもの等は、区の事業としては実施することができない難しさもある。

10 地域メディアの活用による創造プロジェクト「ラヂオはいらいん若林」制作・放送  
実施：若林区まちづくり協議会  
担当：まちづくり推進課

委 ラヂオはいらいんスタッフがずっと変わらないなという印象がある。作り手として新たに関わることが可能なのが気になっているところだ。情報発信のツールが多様化していることで関心を持つ市民が増えていると感じているなかで、特に若い世代がこういう事業を通して、まちづくりに参画できる機会となればと思っている。また、事業成果の部分で、番組作りのスタッフとして幅広い世代や職業の区民に参画・協力を求め、地域活動の新たな担い手として強く意識し活動をしているという記載があるも、現時点ではそれを取材対象側にしか見いだせないのではと疑問に感じているところだ。作り手として新たな人材が参画することをどう捉えているかを伺いたい。

担 作り手として、ここ数年は固定化している。スタッフもメンバーをもっと増やしていきたいという考えは持っている。公募での募集も検討のなかにはあるが、どのような方が公募されるかみえないところに不安を感じており、メンバーの知り合いや取材を通して人材を発掘できるのではと考え、新たな担い手としての視点を強く意識した取材を行っているところだ。

委 昨年度の報告では思いつくままにテーマを決めているとの話で、その際に思いつくままにテーマを決めても良いが、年間の振り返りは必要であるとアドバイスを行った経緯がある。今年度は、テーマに関しての振り返り等を行ったかを知りたい。

担 振り返りに関しては、今年度最後の打ち合わせの時に実施した。振り返りででた課題等を次年度にどう活かすかはまだ見えていないところだが、スタッフそれぞれの意識は高いと感じている。ここまで10年という実績があり、さらに実績を積んでいきたいと考えている。人数が固定化していることで、スタッフ個々の負担が増している事もあるので、まずは新たなスタッフの増員というところから始めなければならない。

【助言】 振り返りでの内容が、実績概要報告書の9番の今後の事業目標や展開等に記載されていくと思うが、記載内容が昨年や一昨年とまったく同じ記載なので、振り返りからの展望、展開をきちんと記載してほしい。

【担】 はい。

## 11 第25回 若林区合唱のつどい2018

実施：若林区まちづくり協議会・合唱連盟わかばやし

担当：まちづくり推進課

【委】 今後の事業展開のなかで、学校からの参加を増やすように働きかけていきたいとの記載があるが、各学校では合唱への取り組みをしていると思うが、何か参加を阻害するような要因があるのか。

【担】 具体的な要因はないと思われる。ただ休日の開催であるため、子ども達の送迎関係や引率する先生のご負担はあると聞いている。一方で学校側からもこのような子ども達の発表の場は欲しいとの要望もある。事務局も一緒になり、参加できる学校が増える取り組みを今後もしていきたいと考えている。

【助言】 可能な限り、このような発表の場を地元のなかで増やして行ってほしい。

## 12 わかばやし区春らんまん

実施：若林区連合商店会 春らんまん実行委員会

担当：まちづくり推進課

【委】 事業効果のなかで、「各商店会が力と知恵を出し合うことで、お客さんに来て頂けるような街をつくれる」ことが実証できたとの記載がある。この事業は商店街の活性化に繋がる流れを生み出すために行っている事業だと見ているが、イベントの限界は、あると感じている。まちづくり推進課がどこまで関われるのかとは別となるが、小売業は大変きびしい状況に置かれており、ネット通販等で購入し、地域のお店には行かない人も増え、どうやって生き残るかというところまできている。そのなかで、イベントだけで良いのかという思いがある。本来の商売として成り立つ支援が必要ではないかと感じているが、商店街の方はイベントをやるのが商店街のためになると考えているのか、それともイベントではない、別な商店街活性化のための検討をしていきたいと考えているのか、どのような認識をもっているのかを伺いたい。

【担】 各地域の商店街、ひとつの商店街としては限界だという声は聞いている。商店街の活性化や区の魅力向上の観点で、区役所としてはこの事業に協力していきたいと考えている。商店街の方も、この事業を行うことで7つの商店街が協力や連携体制を築くこ

とができると思っている。そのなかで、連坊地区と薬師堂地区のように、さらに別な事業と一緒に協力・連携し展開している例もある。経済活性の部分は、経済局の担当となるが、区としてはこの事業を通して協力ができればと考えている。

**委** 本庁だと、中心商店街がメインとなってしまう、周辺の商店街にはあまり目が向いていない印象がある。ぜひ、区にも商店街活性化の視点で知恵をだしてほしい。

**担** はい。

### 13 第 29 回広瀬川灯ろう流し“光と水とコンサートの夕べ”

実施：広瀬川灯ろう流し実行委員会

担当：まちづくり推進課

**委** クラウドファンディングの話がでていたが、もう少し詳しく伺いたい。

**担** 具体的な手法までは把握していないが、新聞等にも掲載しており、その効果もあり目標達成に至ったと思う。

**担** 平成 29 年度の開催は雨が降り、収入が減ったこともあって、今後の開催が危ぶまれる程の財政難となったなかで、いろんな手法でお金を集めていこうという話になった。クラウドファンディングも初の取り組みである。

### 14 若林区魅力発信事業（若林わくドキまち歩き）

実施：若林区まちづくり協議会

担当：まちづくり推進課

**委** 今後の事業目標、展開の部分で「新しい人材を引き込んで開催回数を増やしていく」との記載があるが、具体的に新しい人材の集め方をどのように検討しているか。

**担** 本事業は若林区まちづくり協議会の事業のひとつとして数えられるが、人材不足、人材の固定化に関しては、実施団体のまちづくり協議会のなかでも課題となるところである。人づてに増やしていくしかないとも考えている。ただ同じくまちづくり協議会が携わっている「若林区民ふるさとまつり」の実行委員会の方には、新年度から 7 名の 30 代から 40 代の実行委員が加わることが決まっているので、まつり以外のまちづくり協議会そのものにも協力が頂けるようになればと思っている。

**委** 報告を聞いた印象となるが、現在のまちづくり協議会は安定しているのかなと思った。まちづくり協議会のメンバー、ラヂオはいらいんやわくドキのメンバーも安定しているため、そこから脱却したくないという思いも働いているのではと感じた。信頼できるメンバーで何かを作っていきたいということも大事だが、人材の固定や

高齢化も心配されるなかで、ブレイクスルーをどう捉えていくのかを考えながら募集の仕方も含めての検討が必要になってくる。新しい人材が入ることで、戸惑う部分も当然ではあるが、それを踏まえた関係性づくりを今のうちから構築して次の世代に引き継いでほしいと思う。事務局であるまちづくり推進課も、少し戦略的に新たな人材の確保を捉えてほしい。

**担** 大きな課題を与えられた感じがする。まちづくり協議会のメンバーは自分達がやってきた活動に自負や思い入れを持っている。対して、事務局は転勤等で突然くる形であり、意識あわせ、すり合わせをしていくところから始まる。ただ協議会からも長年人材が固定化し、高齢化していることに「このままではまずい」という思いがあり、少しずつでも世代交代をしていきたいと考えており、事務局としても上手に世代交代が図れるように取り組んでいきたい。

**助言** 知り合いにもまち歩きを企画して主に中心部で実行しているものがある。先程から報告を受けているなかで、そういうまち歩きを企画しているような人達とうまく一緒にやっていくことはできないかと考えていた。よそものは入りにくい環境なのか。ブレイクスルーという言葉もでていたが、他の人や地域も含めてノウハウを取り入れ、これからの若林区の活性化につなげていく図式が作れればと思うがいかかがか。必要であれば、まちづくり協議会にご紹介もできるので検討してほしい。

**委** 昨年度まではわらアートも一緒に事業をやっており、今年度はまちづくり協議会から独立をして事業をしているが、独立したことで、わらアートに携わっていた人も一緒にまちづくり協議会から抜けていったのか。それともわらアートの事業としては独立したが、他のまちづくり協議会の事業には携わっているのか。

**担** わらアートに携わっていた人がすべて抜けたということではない。独立はしたが、今年度はまちづくり協議会から協賛金の支出をしているし、人的な部分でも協議会の会員がわらアートを積極的に手伝っている。

**委** まちづくり協議会は、若林区内で活動している人達が集まってくるようなスキームであるという見方でよろしいか。また個人で加入しているのか。

**担** それが目指す姿だと考えている。最初は区制になった際に、区で導入した形ではあるが、地域でいろんな活動している皆さんを結びつけること、つながりを持たせることだと認識している。

**助言** わらアートはまちづくり協議会から派生して生まれた団体だが、このように新しくできた動きに携わっている人がまちづくり協議会に入ってくるようなルートができることが重要だと思う。区内では若い人で活動されている方ももっといると思うので、ぜひそういう人達とつながってほしい。

委 わくドキまち歩きの事業だが、少し区の補助に頼り過ぎているような印象を受けた。決められた枠のなかで今年もやろうかという感じがする。わらアートが独立したことは、育てていったという見方もでき、今後も事業をやるのであれば、若林区の方で、市民を育てていく、そして独自に自分達でお金も集めて活動ができるようにしていくことを、この事業に限らず、それが広がっていくことを将来像として期待している。次年度は、人を育てる、満足度を高める事業をより検討して行ってほしい。その報告を楽しみにしている。

担 まち歩き企画は人気が高く、毎回参加者を決めるのに抽選を行っている程だ。またアンケートからも好評を得ている。次年度において、人を育てていく、満足度を高めていくような事業を「こうやりました」と報告できるような活動ができればと思っている。